

中学1年 単元名「海を体感し認識を深める①」（8時間）

1 単元設定の理由

ヨット帆走実習を通じ、海洋に関する存在論的な学びを促す。

2 単元目標

- ・ヨット帆走実習を通して海（風や波）を体感し、そこで得られた生徒個々人の体験を生徒間で共有し、海洋に対する多様なとらえ方を学ぶ。
- ・ヨットの仕組みを学ぶことで、海洋で生きるための道具の意味を理解する。
- ・風や波などに関して地学的、物理学的側面から学ぶことで、海洋という自然環境を理解する。
- ・ヨット帆走実習での海洋体験と海洋に関する知識を結びつけ、海洋を多角的な観点から理解する。

3 単元の評価基準

- ・ヨット帆走実習体験については、生徒の作成したレポート作成による自己評価を行なう。
- ・ヨットや海洋に関する知識の理解については、「技術・家庭科」の定期試験のなかで生徒に問う。

4 単元の指導計画

時	学習活動	指導上の留意点
1	ヨット帆走実習～海を体感する～ (※実習は一日のうち3～4時間かけて実施する)	<ul style="list-style-type: none"> ・海上での帆走については自分で考え試行錯誤し、他者の帆走を見て学び、自力でゴールするように努めさせる。 ・帆走実習後のレポート作成を予告しておく。
2	ヨット帆走実習に関するレポート作成～海での体験を振り返る～	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス内で生徒個人の感想や学びを交換しあつたうえで、レポート作成を行なうことが望ましい。
3	ヨットの走る仕組み～ヨット帆走体験をふまえたヨット帆走原理の学習～	<ul style="list-style-type: none"> ・揚力を利用する仕組みや帆走方法の基礎を理解させ、今後の帆走実習の基盤をつくる。
4	ロープワークの学習～ヨット帆走技術の習得と先人の知恵に学ぶ安全～	<ul style="list-style-type: none"> ・帆走技術の基本となるロープワーク技術を習得させるとともに、先人の知恵に学び実生活にも役立てるよう指導する。
外部連携 / 教材等 海洋学特別講義は、講義内容や講師に関して、東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センターとの連携のうえで、実施するものである。 3～6に関しては、自主教材プリントを使用		